

## 昆虫の親は胚を世話するか？

－ 亜社会性ツチカメムシ類における孵化の誘導と調節 －

向井 裕美 氏

(佐賀大学農学部・日本学術振興会特別研究員)

日時：2013 年 1 月 11 日 (金) 16:30～18:30 頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0308 教室

親鳥が孵化する雛のために卵殻を破壊する…こうした特徴的な保育行動は、節足動物である昆虫にも存在しています。雌親が卵の保護や給餌などの保育行動を行う亜社会性ツチカメムシ類では、塊状にまとめられた数十を超える卵のほぼ全てが 15 分程度で孵化するという、極めて同時的な孵化が認められます。何故このような現象が起こるのでしょうか？演者である向井氏の鋭い観察眼と精力的かつ的確な実験により、ベニツチカメムシとフタボシツチカメムシにおいては、孵化の瞬間に雌親が卵塊を抱え込みながら振動させることで一斉孵化が誘導されることが明らかにされました。さらに、フタボシツチカメムシでは、雌親が卵塊を回転させることで卵塊内の温度勾配を解消し、胚子発達の速度を斉一化していることも明らかにされました。新進気鋭の若手研究者が興味深い謎を解き明かしていく…そんな科学の神髄に触れてみませんか？

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室 糸山 享

(5号館 208、内線 7810)